

## ルワンダ月報（2019年5月）

### 主な出来事

#### 【内政】

●列国議会同盟（IPU）の「政治における女性2019」によると、ルワンダの女性閣僚の割合は51.9%で、アフリカで最も高い。

#### 【外政】

- 9日、ルワンダとモロッコは、原子力技術協力のためのMOUに署名した。
- 16～18日、カガメ大統領は、パリで開催されたVivaTechに出席した。
- 21日、ルワンダは、OECD開発センターに加盟した。
- 25日、カガメ大統領は、ラマポーザ南ア大統領の就任式に出席した。
- 31日、カガメ大統領は、コンゴ(民)民にて、ロウレンソ・アンゴラ大統領、セチケディ・コンゴ(民)大統領と首脳会合を行った。

#### 【経済】

- 6日、ルワンダ中央銀行は、政策金利を5.5%から5%に引下げた。
- 6日、ルワンダ中央銀行は、対米ドルの為替レートが緩やかに下落していると発表した。
- 15～16日、第5回トランスフォーム・アフリカ・サミット（TAS）がキガリにて開催された。

※以下は、明示したものを除き、ルワンダの英字日刊紙 The New Times の記事を取りまとめたもの。

#### 【日・ルワンダ関係】

##### ・新天皇陛下御即位祝賀レセプションの開催（4日）

2日、日本大使公邸において、新天皇陛下の御即位祝賀レセプションが開催された。宮下大使は、新しい時代の始まりに際して、日本とルワンダの関係がより強固になることを確信していると述べた。セジベラ外務・国際協力大臣は、「日本は、世界の平和と繁栄に計り知れない貢献をしてきた。」と述べつつ、カガメ大統領の先の訪日時に、安倍総理だけでなく天皇陛下と会見した例を挙げ、両国の関係はすばらしい段階にあると述べた。

##### ・日本とルワンダの共同開発による人工衛星の引渡し（18日：RNA）

日本とルワンダが共同開発している人工衛星（RWASAT）は、トランスフォーム・アフリカ・サミット中に正式にインガビレICT・イノベーション大臣に引き渡された。2018年7月からルワンダのエンジニアと東京大学は、ルワンダ初の人工衛星を共同開発しており、環境、農業ほかにおける重要なデータを提供することが期待されている。

## 【内政】

### ・ アフリカにおける女性の政治進出の割合（8日）

列国議会同盟（IPU）の「政治における女性2019（Women in Politics 2019）」によると、アフリカで女性大臣の割合が高い国は、ルワンダ（51.9%）、南アフリカ（48.6%）、エチオピア（47.6%）、セイシェル（45.5%）、ウガンダ（36.7%）、マリ（34.4%）である。議会での女性の割合については、ルワンダは2017年の64%から2018年には61.3%にやや減少したものの世界一であり、アフリカでは、ナミビア（46.2%）、南アフリカ（42.7%）、セネガル（41.8%）が高い。

### ・ 議会上院による農業及び教育の予算増の要請（14日）

13日、議会上院は、2019/20年度からの3年間の予算枠組みペーパー（BFP）を分析する中で、農業開発及び教育の質の改善における予算増を政府に求めた。

### ・ キガリ市マスタープランの8月完成予定（22日）

21日、キガリ市関係者によると、今後30年のキガリ市の開発ロードマップであるキガリ・マスタープランが8月までに発表される。キガリ市は、安価な住宅、娯楽スペース、公共施設へのアクセスなどを求める市民の懸念を受け、昨年6月、現在のマスタープランの見直しを開始していた。

### ・ サイバー犯罪の増加（30日）

30日、ルワンダ捜査局（RIB）が、2018年のサイバー犯罪が前年の2倍の741件となり、経済損失は60億ルワンダ・フランであったとして、市民に注意を呼び掛けた。

## 【外政】

### ・ モロッコとの原子力技術協力のためのMOU署名（9日）

ルワンダ公益事業規制庁（RURA）とモロッコ原子力・放射線安全保障機構は、原子力技術に関する情報交換のためのMOUに署名した。なお、政府関係者は、ロシア国営原子力企業（ROSATOM）とは原子力研究センター設立に向けた議論が進行中であると述べた。

### ・ フランス政府のジェノサイド追悼日決定に対する歓迎（15日）

ビジマナ（Jean Damascene BIZIMANA）ジェノサイドと闘う国家委員会（CNLG）事務局長は、4月7日をジェノサイド追悼日とするフランス政府の決定を歓迎した。フランスの追悼式は、フランス政府が後ろ盾についた過激派政府によるジェノサイドが始まった日に、毎年パリで開催される。

### ・ カガメ大統領のVivaTech出席（17日）

17日、カガメ大統領は、16～18日にパリで開催されたVivaTechに出席し、サル・セネガル大統領とともに、デジタル経済におけるアフリカの進展を共有した。VivaTechは、イノベーション企業やスタートアップのための年次会合で、今年の会合には125か国以上から10万人以上が参加し、ルワンダからも7社が参加した。

・ルワンダのOECD開発センターへの加盟（21日：RNA）

21日、パリで開催中のOECDフォーラムにおいて、ルワンダはOECD開発センターの55番目のメンバーとして加盟が承認された。ルワンダは、2018年にOECD開発センター加盟申請を行っており、EAC諸国では初めての加盟国となる。

・カガメ大統領のラマポーザ南ア大統領就任式出席（25日：RNA）

25日、プレトリアにて、ラマポーザ南アフリカ大統領就任式が行われ、アフリカ各国の首脳など3万人以上が出席し、ルワンダからはカガメ大統領が参列した。

・ルワンダ・コンゴ（民）間の国境貿易に関する税制見直し（27日）

ハクジャレミエ・ルワンダ貿易・産業大臣とメマ（Lambert Matuku MEMAS）コンゴ（民）外国貿易大臣は、2016年に署名された二国間貿易の促進を目的とした協定を見直すための二国間協議をキガリで開催した。両大臣は、無税となるモノの価値の上限の引下げについて引き続き協議するとともに、無税となるモノのリストの見直しを3か月以内に実施することで合意した。2018年の両国の国境貿易額は1億2,000万米ドルである。

・ウガンダとの国境におけるワンストップ・ボーダー・ポスト（OSBP）の完成予定は6月（29日）

27日、ウウィハンガニエ交通国務大臣は、ルワンダ政府が3月から大型トラックの越境を禁止していたルワンダーウガンダ国境のガトゥナ（Gatuna）において、OSBPのルワンダ側の工事が6月中に完了する予定であると述べた。

・ルワンダ、アンゴラ、コンゴ（民）による首脳会合（6月1日）

31日、カガメ大統領は、コンゴ（民）を訪問し、ロウレンソ・アンゴラ大統領、セチケディ・コンゴ（民）大統領と3か国首脳会談を行い、全ての武装勢力を根絶し、国家の安全保障に対する脅威を終わらせるために、安全保障分野での協力を強化することで合意した。

【経済】

・政策金利の5%への引下げ（7日）

6日、ルワンダ中央銀行（BNR）は、民間への貸付けに拍車をかけるため、政策金利（key repo rate）を5.5%から5%に引下げた。これにより、商業銀行が民間セクターに投資することが見込まれる。政策金利の引下げは、2017年の6%から5%への引下げ以来である。

・対米ドル為替レートの緩やかな下落（8日）

6日、ルワンダ中央銀行（BNR）は、ルワンダ・フランの米ドルに対する為替レートの下落は現在1.48%であり、当初想定した5%内であると述べた。なお、ルワンゴンバ（John RWANGOMBA）BNR総裁は、インフレ率は現在1%であるが、今年は平均3%を予想していると述べた。

・第5回トランスフォーラム・アフリカ・サミット（TAS）の開催（15日）

15～16日、第5回TASがキガリで開催され、4,000人以上が出席した。「アフリ

カにおける電子経済の加速」と題した同サミットに先立ち、第2回経済フォーラム年次総会も開催された。

(了)